

リーディングDXスクール事業【実践事例】

熊本市立城東小学校

【取組内容①】単元のゴールに向け、個々の学びを交流する工夫

4年国語「二つの広告を読みくらべよう」

同じ商品の二つの広告を読み比べて、意図や目的による表現の工夫や効果の違いを読み取ることができる。

1 単元のゴールをつかむ。

単元のゴールを身近な広告の工夫を見つけ、紹介する言語活動に設定。それをつかませるために、**以下のアプリを使って教師がモデルを示す**。そのことで、ゴールに向けて主体的に学習に取り組み出す。
※アプリ：写真に口をつけ、録音することができる。まるで広告自体が話しているように見える。

2 広告の工夫を学ぶ。



同じ広告（体温計）を比べ、共通点や相違点をベン図（タブレット）まとめたことをグループや全体で交流。

3 自分が選んだ広告の工夫を探す

めあて： 広告の表し方の工夫を見つけて分せきしよう。

- キャッチコピー**
 - 冷やすぎた中華 → 普通じゃ無いもの目に行く → 注目される
- 写真**
 - 写真は笑 → 暖かさに合わせて欲しい
- 色**
 - 青 → 冷たい、冷えすぎている
- レイアウト**
 - 裏面指定部分、折り切れ次第終了 → いつでも食べれる訳ではない → 食べたくなる

学んだ工夫を活かす



自分が選んだ広告について、目的や相手を踏まえ、どのような工夫があるのかを探し、まとめる。
・キャッチコピー、写真、色、レイアウト等

個々の学びを交流



各自で選んだ広告で見つけた工夫について、適宜、交流しながら学び合う。「〇〇だと思うけど、どうかな？」

広告に、工夫を吹き込み完成・互いに視聴する。